

令和5年度1学期始業式「式辞」

皆さん、改めまして、この4月から、芦屋国際中等教育学校長に就任しました川崎芳徳（かわさきよしのり）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

令和5年度1学期のスタートにあたり、一言、ごあいさつを述べさせていただきます。

皆さん、いよいよ学年が一つ上がりましたね。16期生は、6年次、ラストの一年です。18期生は、後期課程スタートです。19期生は、一ヶ月後に修学旅行です。私も、一緒に行かせていただきますね。そして、今日の午前中には、21期生80名が入学しました。皆さんの新しい後輩です。どうか仲良く、互いに思いやりの心を忘れず、皆でしっかり学び、しっかり楽しみ、生涯の思い出をたくさんつくってください。

今日は、新年度初日、クラス替えも行われますので、「旅人の話」というお話を聞いてください……

ある町がありました。一人の旅人がその町にやってきました。

町の入口の門のところに一人の老人が立っていました。

旅人は老人に聞きます。

「おじいさん、この町はどんな町？」

すると、逆におじいさんは旅人に聞きます。

「あなたが、いままでいた町はどんな町でしたか？」

旅人は答えました。

「いやあ、前にいた町は嫌な人ばかりで、ろくな町じゃなかったよ」

おじいさんは旅人に言います。

「そうですか、この町もあなたが前にいた町と同じ町です」

また別の日に、違う旅人が来ました。

旅人が老人に聞きます。

「おじいさん、この町はいったいどんな町ですか？」

逆に、おじいさんは旅人に聞きます。

「あなたが、これまでいた町はどんな町でしたか？」

旅人は答えました。

「私がこれまでいた町は、すばらしい町で、人々は親切で、あんなによい町はありませんでした」

それを聞いたおじいさんは旅人に言います。

「そうですか、この町もあなたが前にいた町と同じ町です」

さあ、皆さん、どんな感想を持たれましたか。これは、“心の持ち方”“考え方”が、いかに大切かを考えさせられるお話です。

周囲の人に対し、自分が置かれている環境に対し、自らを振り返ることなく、常に不平不満を口にし、取り組まなければならないことをおろそかにする人、

逆に、周囲の人や自分が置かれた今の環境に「感謝」の心を持ち、うまくいかない時は自らを反省しながら、やるべきことを誠実に継続する人…この違いが続くと、歩む人生に大きな差が生じます。

新年度は、新しいクラスです。「前のクラス、どんなクラスだった？」こんなやりとりがあるかもしれません。いつも、皆が楽しく過ごせ、活気あるクラスにするよう努めている人は、「いい友達ばかりで素晴らしいクラスだった。新しいクラスもいいクラスにしよう！ きっといいクラスにできるよ！」と答えるのではないのでしょうか。その逆は…「最低のクラスだった。いやなやつばかりだった…」と、こんな感じてしまうのでしょうか…この人は、1年後にも同じように、「前のクラスは最低で…」と語るのではないのでしょうか。

皆さん、協力して仲良く、さらに楽しいクラス、学校にしていきたいと思います。皆さんひとりひとりに秘められた素晴らしい能力は、楽しみながら取り組む中で、大きく開花するようにできているのです。抑圧、強制、憎しみ合いの環境下では、大きな成長はないのです。

人間関係は財産です。とりわけ、皆さんの年齢、中等教育学校時代の「友」は、生涯の「友」となります。同じ時代に同じこの国で、同じ芦屋国際中等教育学校で出会う確率は、まさに奇跡的な確率です。この深い「ご縁」を大切に、一人でも多くの生涯の「友」をつくってください。

そのためには、まずは挨拶、笑顔、クイックスマイルを忘れないでください。挨拶をした数だけ、笑顔の数だけ自らの魂が高まり、人間力が向上することも知っておいてください。

それでは、楽しく、充実した1学期となりますことを願い、以上、令和5年度1学期始業式の「式辞」とします。

令和5年4月10日

兵庫県立芦屋国際中等教育学校長 川崎 芳徳